

福岡県ベンチャービジネス支援協議会

## タイにおける現地情報

2021年8月17日

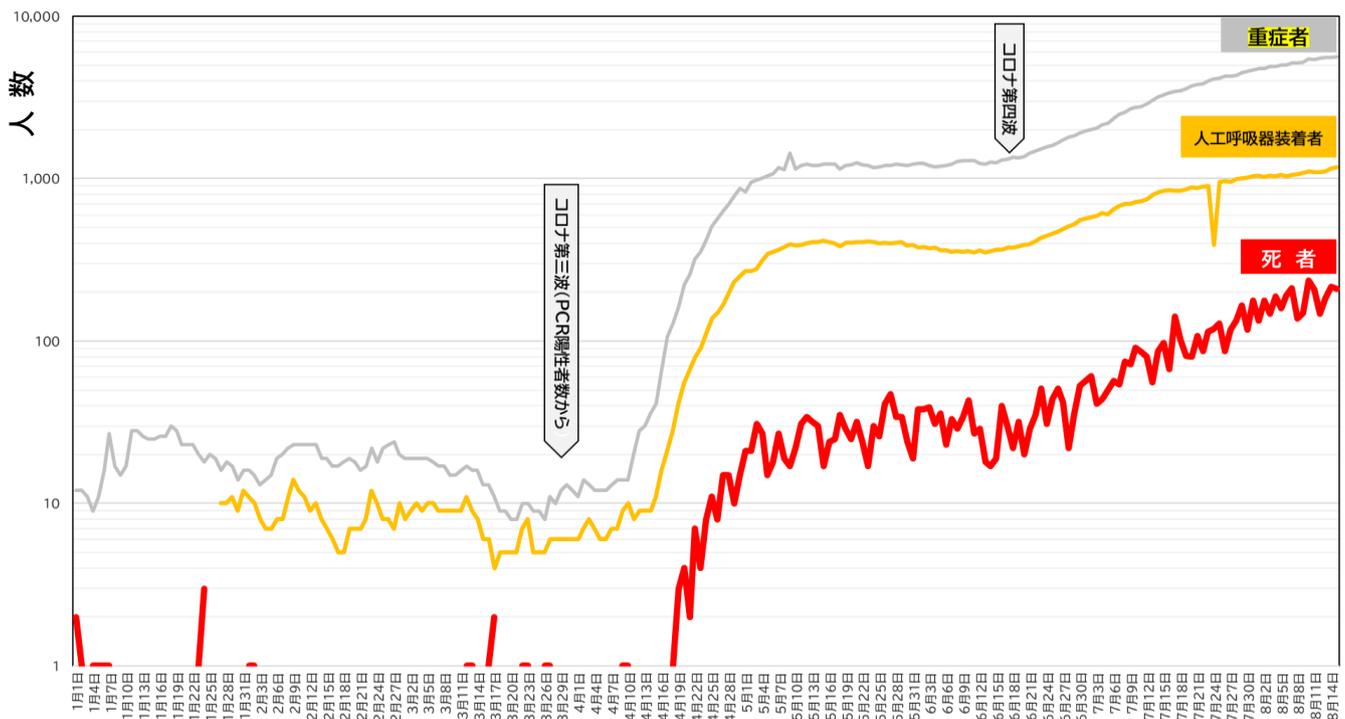
HS-TECH ENGINEERING

橋本真也(バンコク在住)

### 【コロナ第四波の襲来】

#### コロナ指標(重症者、人工呼吸器装着者、死亡者等)の推移

3月下旬頃に勃発した「**コロナ第三波**」は一向に沈静化の兆しが見えない。むしろ6月中旬に入ってから**重症者**<sup>1</sup>、人工呼吸器装着者数並びに死者数の激増(図・表 1)は、新たな「**第四波**」に入ってしまったようだ。直近の8月15日は、重症者が5,615人、人工呼吸器装着者が1,172人、死者に至っては209人(統計上4番目)に達した。しかも、政府のシミュレーションでは最悪、ここ数ヶ月以内に日間PCR陽性者数<sup>2</sup>が4万人を超える。このままでは、10月中旬頃に外国人旅行者(ワクチン接種済み)をタイ全土で受け入れるとした「**首相方針**」もおぼつかない。これからが正念場だ。



図・表 1 コロナ指標(日間)の推移(1月1日~8月15日まで)

月 日

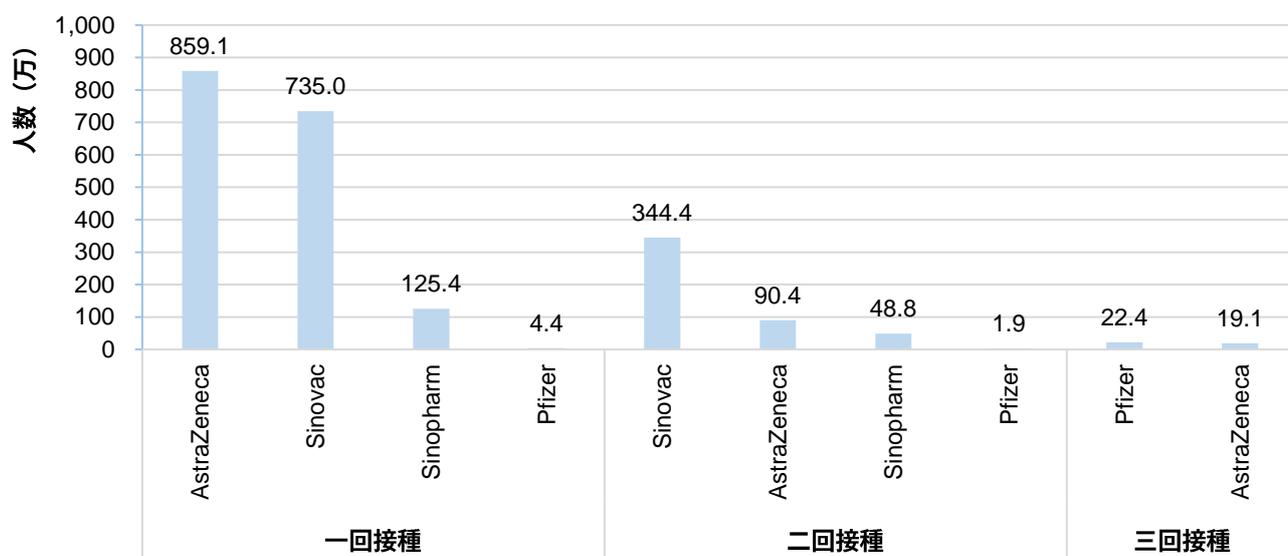
出所:タイ国災害管理局(Department of Disease Control)のデータから作成

<sup>1</sup> タイの重症者には、会話不能、胸部の圧迫感(常時)、呼吸時の胸の痛み、動脈血酸素飽和度、胸部 X 線写真等に肺の浸潤の進行を示す患者等が含まれている。ただし、人工呼吸器装着者は別カウントとなる。

<sup>2</sup> 米国危機管理局はこれまで実施してきた「リアルタイム PCR 検査」を [12 月末で取りやめ、信頼性の高い検査方法へ移行](#)する。従って、タイでも PCR 検査陽性者数をコロナ指標とするのは、今年で終了かもしれない。

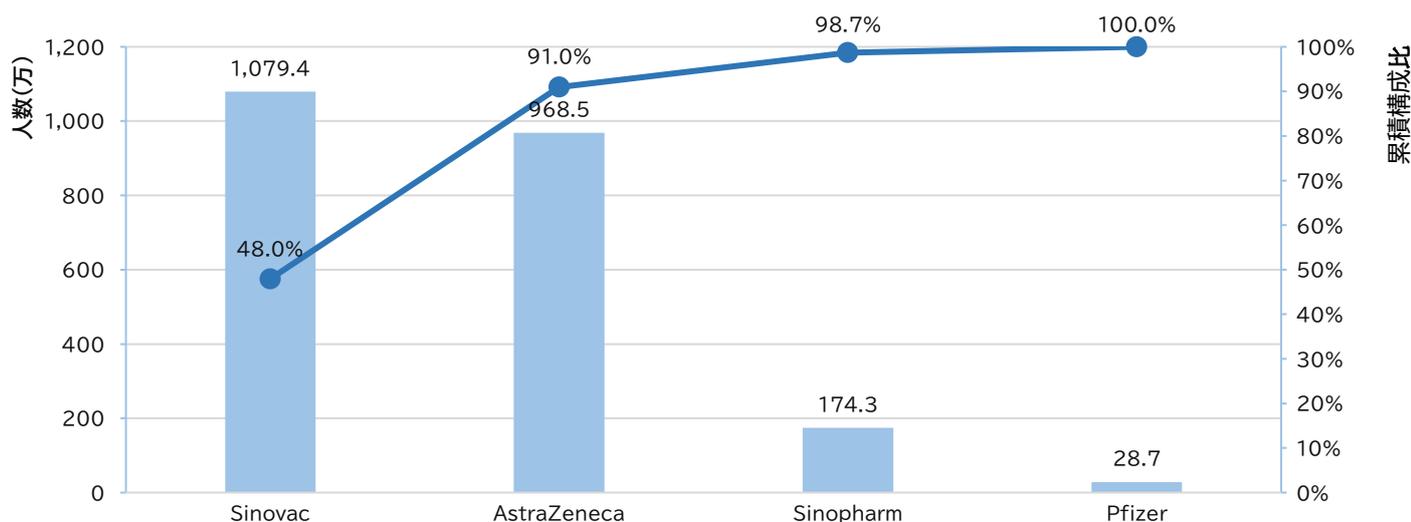
## ワクチン接種状況

タイ政府は2022年3月頃までの集団免疫達成を目指し、4種類のワクチン接種に取り組んでいる。例えば、国内最大の集団接種会場として6月7日に設営されたバンソー中央駅では毎日、一万回を越えるワクチン接種<sup>3</sup>を行っている(後述のバンコク点描参照)。8月13日時点で、全人口の約26%(1,723.9万人)が第一回目の接種を、同・7.3%(485.5万人)が二回目、そして医療関係者等(同0.6%で41.4万人)が三回目の接種を受けた(図・表2)。ワクチンごとのシェアは、Sinovac(48.0%), AstraZeneca(43.0%), Sinopharm(7.7%)およびPfizer(1.3%)<sup>4</sup>(図・表3)。



図・表 2 ワクチンごとの接種回数と接種人数

出所: The Nation 電子版(高度教育科学イノベーション研究省)から作成



図・表 3 ワクチンごとの接種人数とシェア

出所: 図・表2と同じ

<sup>3</sup> <https://www.flickr.com/photos/whothailand/sets/72157719456417105/>

<sup>4</sup> <https://www.nationthailand.com/in-focus/40004678>

## プーケット(島)での惨劇

国を挙げて7月1日からスタートした**プーケットサンドボックスプログラム**<sup>5</sup>は15,169人(8月2日時点)の外国人旅行者<sup>6</sup>を迎え、幸先の良いスタートを切った。プーケット(島)は約70%が森林地帯で、海でも山でも観光が楽しめる美しい島だ。観光関連産業がタイのGDPに占める割合は12%(2019年)で、日本の自動車産業の同・10%(2018年)を越える。プーケット(島)での試行は、10月中旬頃の「タイ全土開国」に向けた重要な試金石だ。

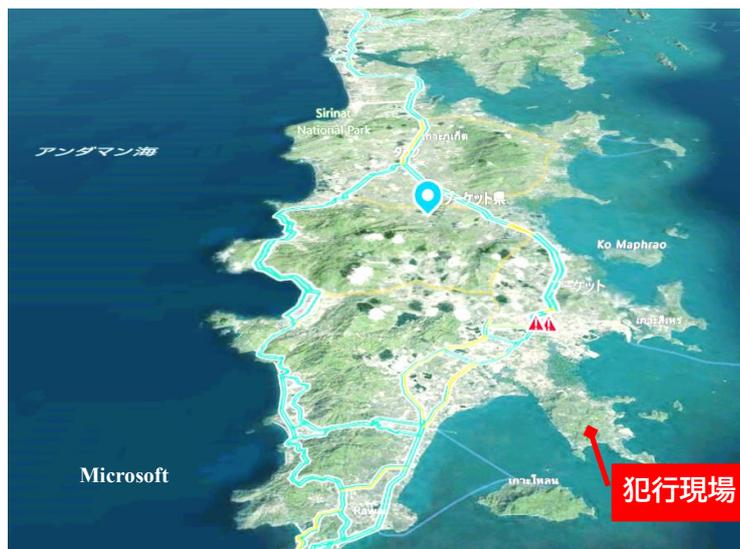


写真 1 プーケット(島)全景と犯行現場

ところが8月5日、下半身半裸の外国人女性と見られる遺体が宿泊中のホテルから約1,400メートル離れた人気の少ない滝近くの森(写真1)で発見された<sup>7</sup>。

遺体はシンガポール経由で7月13日にプーケット入りした、57歳のスイス人(スイス連邦職員)であることが判明した。これを深刻な事態と捉えた国家警察庁長官は即日、バンコクから精鋭の捜査チームを引き連れて現地入りし、地元関係者と共に捜査に当たった。

図・表 4 プーケット島におけるリスクの高い場所

No.	場所
1	Pru Mai Khao forest(森)
2	Banana and Naithon beaches(浜辺)
3	Bang Thao mountain scenic point(眺望ポイント)
4	Wang Khee On waterfall(滝)
5	Khlong Mudong mangrove forest(森)
6	Ton Ao Yon waterfall (森) <b>犯行現場</b>

懸命の捜査の結果、事件発覚からわずか二日後の8月7日、事件現場からさほど遠くない場所のCCTVカメラ画像がきっかけとなり、コロナで失職した27歳のタイ人の男(プーケット在住)が、容疑者として逮捕された。この男は『連れがおらず、滝で遊泳中の女性を見かけ、金品目当てに犯行に及んだ。殺すつもりはなかった。家族に申し訳ない。』と自供

した。盗んだ金(約1,000円)の一部は非合法薬物の購入に使われた。しかも容疑者には2020年10月、薬物所持の前科があった。

このような惨劇の再発防止に向け、全島挙げて「見回りの強化」や「CCTVカメラ等が設置されていないリスクの高い場所(図・表4<sup>8</sup>)」が特定され、対策が講じられる。本件に関して首相からも深い弔意が示された。加えて、タイ政府からのお見舞いは破格の100万バーツ(350万円)、精一杯の「気持ち」だろう。

<sup>5</sup> 3 ページ、コロナ第三波との格闘(その3) [<https://www.f-abc.org/news/060/>]

<sup>6</sup> 外国人の十数パーセントはプーケット滞在后、バンコクや隣県およびチェンマイ等に移動したようだ。

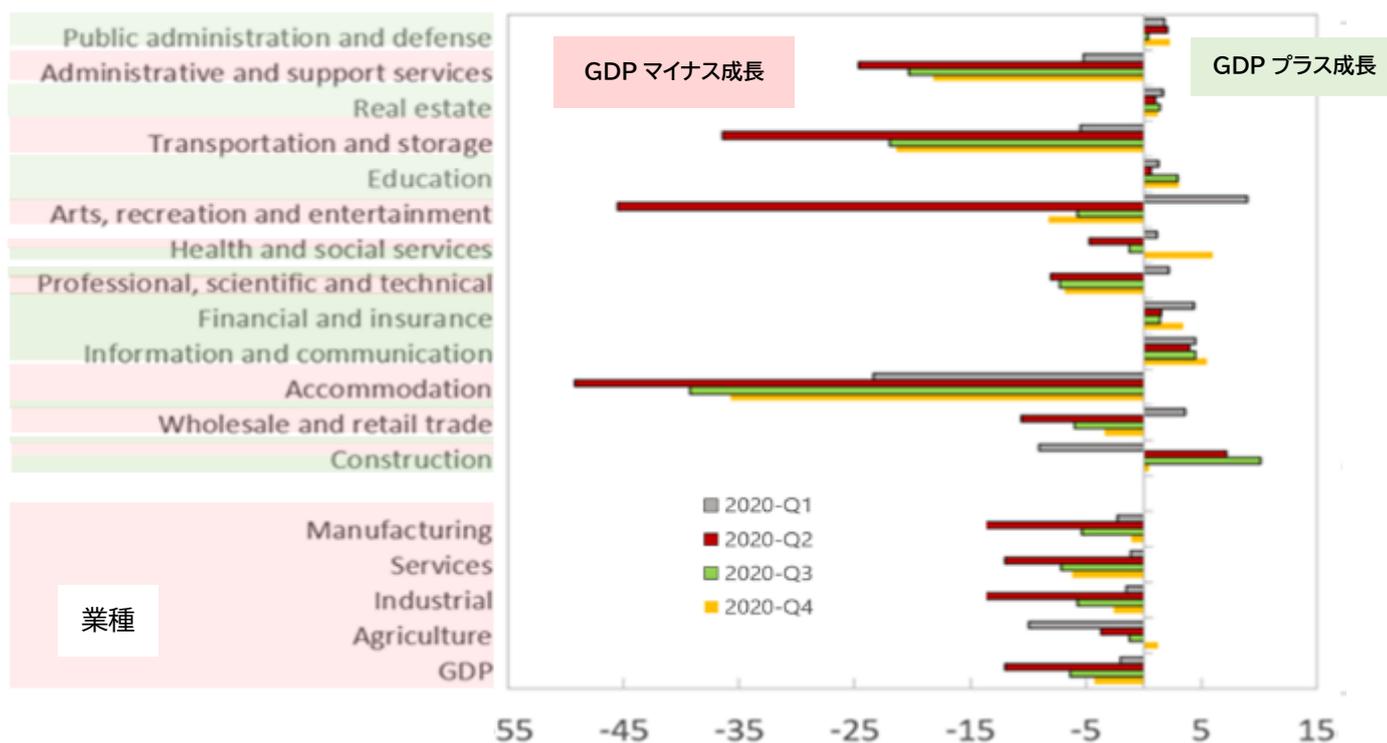
<sup>7</sup> 観光客にも有名な滝の一つであるが、コロナ禍で今は訪れる人もほとんどいないようだ。

<sup>8</sup> Six Phuket spots pose security risk for tourists, [<https://www.nationthailand.com/in-focus/40004551>]

## 経済の状況

### ❖ タイの業種別 GDP(2019 と 2020 年の四半期ごとの比較)

2020 年の公共・軍事部門、不動産、教育、金融・保険関連の四半期ごとの GDP は対前年同期比で堅調であったが、各種サービス、輸送・保管、エンターテインメント、宿泊業は GDP を大幅に毀損した(図・表 5)。ただし、2020 年第四・四半期はダメージを受けた多くの業種で GDP は回復基調にあった。これはあくまで、「コロナ第三波」および「第四波」の襲来以前のスコアである。



図・表 5 タイの業種別 GDP の比較(2019 を基準とした 2020 年の四半期ごと)

出所:国際通貨基金のウェブサイトの図(原典:[Haver Analytics](https://www.haveranalytics.com/))を加工

### ❖ 製造業における部品サプライチェーンの不安定化

PCR 陽性者および感染者の急増により、出勤者を確保できず工場の運営に支障を来したり、意図的に陽性者を秘匿したりした事例も散見される。以下、三つの事例を紹介する。

- 1) **タイ資本・金属部品メーカー(チョンブリ県)**:8月9日(月)から9月5日(日)まで、何人たりとも工場敷地内への出入りを禁止することを条件に、操業が許可された。従業員もこの期間は工場から一歩も出られない。
- 2) **自動車部品メーカー(ラヨン県)**:従業員に感染者が出たことを行政に報告しなかったことが露見し、14日間の操業停止処分を受けた。
- 3) **日系自動車、電子機器メーカー(アユタヤ県)**:部品調達が困難になり、7月中の一定期間、休業を余儀なくされた。

## ❖ 国営 PTT グローバルケミカル社／米国カーギル社:生分解性プラスチック製造プラント建設

このコロナ禍にあっても、タイ政府(BOI: Board of Investment)が様々な**投資奨励制度**を導入し、強かに誘致を促す **Bio-Circular-Green Economic Model(BCG)**に合致する事業が着々と推進されている。8月10日、サトウキビを原料とした生分解性プラスチック(ポリ乳酸)製造プラント建設で上記2社が合意。PTT グローバルケミカル社はタイ国最大の国営石油化学会社<sup>9</sup>。プラユット首相が**オンラインでの契約調印式**を主宰した。投資額は200億バーツ(666億円)で2024年の出荷を目指す。

## バンコク点描

### ❖ カーオマンガイトーンのお店



薄く味付けしたタイ飯の上に「蒸し鶏や鳥の唐揚げ」をのせて食す、中国由来の代表的タイ料理(カーオマンガイトーン)。パイトゥーイ(ハーブ)やカー(生姜)、パクチーなどが風味付けに使われる。

スクンビット大通りに面したこの店(今はテイクアウトのみ)を切り盛りするタイ人女性のTシャツや大型炊飯器、麺屋(左隣)の暖簾に親しみを感じる。

### ❖ ワクチン集団接種センター(バンスーグランドステーション構内に6月7日設営済み)



タイ国内で最大のワクチン接種拠点となった「バンスーグランドステーション(BSGS 駅)」は今年8月に開業したばかり。将来、高速鉄道で周辺国とも結ばれる東南アジア最大級のBSGS駅は、バンコク・バンスー地区開発(100ヘクタール)の中心的位置づけ。

開発コンセプトは「**天使の都<sup>10</sup>のゲートウェイ(玄関口)**」。スマートシティを採り入れた壮大な計画で、本邦・国際協力機構・JICA<sup>11</sup>が協力した。事業が完工する2032年頃、バンコク都心から北方10キロの区域に「職・住・リクレーション」を備えた新たな副都心が創出される。この事業がタイを中心とした周辺各国のなお一層の活性化に貢献するだろう。

(紫:7-8月、筆者撮影)

以上

<sup>9</sup> PTTは昨年10月、パイプラインからの天然ガス**漏洩爆発事故**を起こし、3名が死亡した。(石油)化学、エネルギー系プラント等の安全確保に関しては、**本邦・経済産業省およびタイ国・工業省間で協力覚書**が6月28日締結された。AIやInternet of Things(IoT)等の活用を通じた、タイのプラント等の安全性及び効率性の継続的な向上に関して日本(産、官、学)からの支援がスタートしたことに言及しておきたい。

<sup>10</sup> バンコク都のタイ語呼称は「クルンテープ マハーナコーン」で、天使の都(街)のこと。

<sup>11</sup> JICA Magazine 2021年8月号、日本の建設・開発コンサルティング会社および独立行政法人都市再生機構等を含む。  
[\[https://www.jica.go.jp/publication/j-magazine/2108/ku57pq00002ntf32-att/04.pdf\]](https://www.jica.go.jp/publication/j-magazine/2108/ku57pq00002ntf32-att/04.pdf)